

# 事前評価報告書

事業名: 沖縄シングルマザーの活躍推進基盤構築事業

資金分配団体: 公益財団法人オリオンビール奨学財団

報告者: 公益財団法人オリオンビール奨学財団

実行団体: 公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会、株式会社アソシア、株式会社レキサス、特定非営利活動法人リトルワンズ

実施時期: 2021年2月～2024年3月

対象地域: 沖縄県

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

## 概要

**事業概要**

本事業では、沖縄NPOの資金分配を通じて、シングルマザーに対して、経済的自立への一歩を踏み出すための基盤を構築することを目指します。それは3つの機能提供から構成されています。1つ目はシングルマザー同士の連帯を図り孤立感の解消や助け合いを促進するネットワークを構築する「精神的基盤の支援（コミュニティ）」です。2つ目は、職業人としてのマインド涵養、基本的スキルの習得を研修等で支援する「就労態度の変革（Ready）」です。そして3つ目は就労上の課題などを企業側との間に入り解決を図ることでスムーズな就職、就職後の定着をサポートする「企業との連携（Take-off）」です。

さらに、資金分配団体活動と伴走支援を通じて、協力を頂く活動団体のNPO活動方向性や強みを生かし、これらの3つの機能発揮のための支援を行う予定です。

**中長期アウトカム**

（事業終了後1～2年後）1. 仕事への意欲の向上：仕事で成果を創出し、更なる高付加価値の仕事に挑戦する/ 2. 自己肯定感の向上：離婚・子育て等で精神的・肉体的に疲弊しているシングルマザーが「自ら環境を変えられる」という前向きさを持つ

（事業終了後2～3年後）3. 収入額の増加：月給・手当等の生活賃金増加でシングルマザーの経済的課題が改善/ 4. 生活環境の満足度増加：低賃金長時間労働に陥りがちなシングルマザーの生活環境が改善/ 養育費の増加：将来の進学・キャリアの選択肢を与える機会に繋がることを意図して、養育費が増加

短期アウトカム	
資金的支援	0-1 安心安全なセミナー環境整備が必要だと認知される
	0-2 セミナーがアウトリーチされているか
	0-3 セミナー参加の障壁を下げる（参加費補助、時間の柔軟さ、児童預かり制度等）
	1-1 プロフェッショナルとして就労を目指すマインド熟成
	1-2 セミナーや研修の受講で不安を解消
	1-3 就労意欲の向上
	2-1 付加価値の高い業務を遂行するための基礎知識・スキルを得る
	2-2 就労の選択肢の幅が広がる
非資金的支援	0-1 シングルマザーの状態分析をし、適切な支援方法を検討できるようにする（WGがアドバイス）
	0-2 セミナー設計支援（必要なプログラムを対象の状況やレベルに合わせてきめ細やかに設定）
	1-1 実行団体が高い事業運営スキルを持つ
	1-2 資金計画を立て、状況に応じた資金管理を実施できるようになる
	2-1 実行団体が支援施策立案能力を向上させる
	2-2 効果的・効率的に事業を運営していく
	3-1 シングルマザー雇用のための雇用企業ニーズを調査・提供
3-2 シングルマザー雇用に意欲的な会社の情報提供、紹介	
4-1 沖縄県内外企業のシングルマザー雇用へのモチベーションが高まる	
4-2 シングルマザー雇用を増加させるための情報共有ネットワークに入る（オリオンガリードするコンソーシアムに参加する）	
4-3 沖縄県内外企業のシングルマザー雇用のための環境が整備される	

## 事業の背景

<b>(1) 社会課題</b>
シングルマザーの貧困には連鎖の構造があります。まず所得が低い仕事に就くことで生活が不安定になり、家庭内不和から夫婦の離婚率が高くなります。離婚したシングルマザーは十分な養育費を夫から受給できず、生活のため長時間働くことから子供の養育に手をかけられません。その子供たちは、十分に勉強ができず大学進学が困難になります。そして結果として親と同じく所得の低い職業に就くといった連鎖構造が生まれています。
<b>(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況</b>
沖縄では「就業支援（資格講習会開催、就労支援給付金制度設置等）」「経済的支援（児童扶養手当の支給、等）」「子育てと生活支援（生活、養育等の相談実施）」「養育費の確保（相談員や弁護士による相談受付）」の4領域で行政のシングルマザー支援がなされています。これらの活動はシングルマザーの生活を下支えています。シングルマザー自身が経済的に自立していくためには、職業能力の開発や高付加価値業務への就業機会の提供といった付加的な支援がさらに必要と考えています。
<b>(3) 休眠預金等交付金に係る資金の活用により本事業を実施する意義</b>
沖縄の根本的課題であるシングルマザーの連鎖の解決を目指す本事業は、公益活動への助成を基本理念とする休眠預金活用事業の趣旨と合致すると認識しています。また既存NPOの予算では活動が生活支援に留まり、十分な支援が難しかった状況に対して、今回の休眠預金の予算活用を通じてさらに大規模に活動を拡大し、支援を行っていくことは、シングルマザーの経済的自立を達成することに繋がると考えます

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野		役職等
内部	社会的インパクト評価		プログラムオフィサー
外部	実行団体メンター		評価アドバイザー

評価実施概要

評価実施概要
<p>事前評価として実施したのは、先行リサーチの分析と伴走支援のために行われた各団体との個別定例でのヒアリングである。                      シングルマザーの課題の把握は「平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告書」を参考に分析した。                      最終的に採択された各団体の事業の性質が大きく異なるため、その事業設計や指標設計を個別具体的に実施する必要がある。                      現状は、早期介入の「アソシア」、シングルマザーへのキャリア支援の「レキサス」「沖縄県母子寡婦連合会」と、ビジネスセクターへアプローチする「リトルワンス」が協働することでの、コレクティブインパクトのあり方を検討中である。</p> <p>2021/4/7,8 オリエンテーションで評価概要を実行団体にレクチャー。                      4/14に社会的インパクト評価についてのレクチャーとロジックモデルの作成ワークショップを実施。                      その後、月1回のプロジェクト会議、個別相談会にて、実施状況や評価についての相談をしながら進めた。                      必要に応じて、石幡氏に実行団体に向けてのアドバイスを依頼した。（現状石幡氏のアドバイスを受けているのは、レキサスと沖縄県母子寡婦連合会）</p>
自己評価の総括
<p>特定された課題の妥当性については、多くの団体が同じ先行研究（「平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告書」を参照に、シングルマザーの置かれる経済的に困難な状況を把握。（シングルマザー世帯の年間総収入（278万円）、自身の年間総収入（223万円）、自身の年間就労収入（187万円））それをベースに各団体が独自のヒアリング調査などを通じ、課題を把握しており、適切に分析がされているといえる。特定された事業対象の妥当性に関しても、シングルマザーの収入状況などは、各団体の事業参加者から先行研究と同様の収入であることがわかり、支援の必要性が明らかになった。事業設計の妥当性に関しては、各団体とPOが協議の上、必要に応じて評価アドバイザーの支援を受けながら指標を設計している。情報収集の方法も年間スケジュールと照らし合わせ、実行可能な調査方法を検討しているため、関係各所との合意形成はできているといえる。事業設計の妥当性現在、コロナ禍の影響を受けながらも、各団体は概ね予定どおり事業を実施しており、事業実施計画は妥当だったと言える。一方でコミュニティ支援に関しては、スケジュール再調整や方法の変更を余儀なくされており、柔軟な対応がとられている。</p>

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	高い	<p>事業の対象グループはどのような問題・関心・期待・懸念などをもっているか                      判断方法(指標など) : 当事者からの論点提供                      ステークホルダーによる課題のサブセッションによるアイデアや意見/直接的・間接的対象グループの関心、期待など                      判断基準値: (状態) 事業の関係者間で課題に関する合意がほぼできている</p> <p>4/14に全団体を集めてロジックモデルを作成してみるためのワークショップを開催し、各団体の事業計画や課題分析状況を把握。団体同士でお互いの事業を理解し、協力体制を築くための顔合わせを行った。また、その後定例プロジェクト会議で全団体との打ち合わせを月1回で開催し、各団体との個別定例でも状況分析内容を把握している。</p> <p>シングルマザーの収入の少なさなどから、セミナーや就労支援、またコミュニティで安心安全な環境の提供が必要なことは明らか。また、セミナーでのスキルアップに加え、コミュニティでのセミナー継続のためのサポートや、スキルアップ以外の心理的な面でのサポートも必要だと明らかになった。以上のように、実行団体を通して当事者からの論点提供は行われている。</p> <p>企業に関しては、リトルワズから情報提供を受けているが、シングルマザー支援に関心のある企業も、多くは就労環境整備が十分ではないため、丁寧なコンサルティングが必要と明らかになった。</p> <p>また行政との連携についても、アソシアの事業に参画する琉球大学の教授陣やリトルワズ代表から状況をヒアリングしている。シェルター事業に関しては、受け入れ要請は多いが、行政から精査せず団体へ、利用希望者の連絡が来るため、役割分担などを調整刷る必要がある。リトルワズは、必要に応じ国会議員等政治家に対するロビイング活動も行いながら、行政に対して既存補助金の活用に着目をおいた政策提言を実施していく方向性をもって活動中。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	高い	<p><b>【評価小項目】</b>                      ①課題の問題構造を十分に把握しているか（先行研究等、既存データのレビュー）/②シングルマザーにとって必要な就労支援、必要な収入などを把握しているか確認/③企業の求める、シングルマザーのスキルセットとシングルマザーの保持するスキルのギャップの確認/④当事者からの論点提供 ステークホルダーによる課題の視点 ワークショップによるアイデアや意見/⑤ステークホルダーによる多様な視点で問題構造の可視化を行い、社会課題として共有をはかる</p> <p><b>【判断方法(指標など)】</b> 課題の要因に関する先行研究のレビューや諸要因の関係性の把握  <b>【判断基準値】</b> (状態) 先行研究等に照らして、課題を十分に把握できている/ (状態) のステークホルダーを把握し、協力しあう関係を構築できている/ (状態) 事業の関係者間で課題の要因に関する合意がほぼできている</p> <p>①「平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告書」を参照に、シングルマザーの置かれる経済的に困難な状況を把握。（シングルマザー世帯の年間総収入（278万円）、自身の年間総収入（223万円）、自身の年間就労収入（187万円））</p> <p>②実行団体と協議し必要な収入を把握。現状、実行団体は目標の就労収入を200万円（平均187万円からアップさせる。）と設定しているが、今後更に調査を行い、本目標値の妥当性を検討する予定。</p> <p>③主にリトルワズから聞き取り。沖縄県のシングルマザーセミナーはマイクロソフトオフィスの研修などを実施しているが、そうしたスキルよりも、対人的な営業、コミュニケーションスキルなどが重要だが足りていないことが多い。</p> <p>④レキサスからの聞き取りによれば、シングルマザーは実務スキルよりもビジネスマナーなどの、基礎的な社会人スキルが不足。⑤定例プロジェクト会議にて、複数団体と情報共有。シングルマザーの基礎的なスキル不足の実態を共有。一方で公的事業として提供されるセミナーで得られるスキルと企業が求めるスキルにギャップがあることが判明。沖縄県母子寡婦連合会などが実施する就労支援が重要だが、紹介できる業種は増やす必要があり、紹介企業を増やすリトルワズの事業の重要性、またマッチングの精度を上げることの重要性も明らかになった。</p> <p>※聞き取りは毎月の個別定例時に実施している。</p>

事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>【評価小項目】最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計はできているか  【判断方法(指標など)】当事者からの論点提供 ToCの質  【判断基準値】(状態)事業の関係者間で課題に関する合意がほぼできている/設定された指標の妥当性・適切性  ①(状態)先行研究に照らして、十分妥当な設計になっているか/②(状態)事業関係者が十分納得できる内容になっているか/③(状態)指標が十分に妥当かつデータ収集可能なものになっているか/④(状態)事業関係者と合意できる</p> <p>①ロジックモデルワークショップを通じて、各団体は事業内容を見直した。また指標に関しても、「平成30年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告書」や、これまでの実績をベースに妥当な設計になっている。②③に関しては、各事業の受益者の変化を追うべく、指標を設計したが、特に受益者の成長や内面の変化を測るための指標は、現在設計中である。特にレキサスは、独自の評価手法を開発すべく、評価アドバイザーの協力を得ながら、事業関係者と合意形成しようとしている。④事業関係者との合意に関しては、各実行団体がステークホルダーと相談しながら、事業を進めており概ね合意できている。アソシアは琉球大学教授陣と連携し、専門家の知見を持ち寄りながら、事業実施現場での状況や、現状の状況についてヒアリングを実施している。レキサスはセミナーを実施しているFourDigitやコミュニティ支援をしているしんぐるまざー・ふぉーらむなどと相談しながら、セミナー内容を調整しながら事業を実施している。沖縄県星冨婦福祉連合会は、マギー株式会社と相談しながら、セミナー内容を調整し、就労支援と組み合わせながら事業を実施している。リトルワンズは、各業界の企業と協働予定だが、就労環境などを調整している最中である。</p>
	④事業計画の妥当性	概ね高い	<p>【評価小項目】①達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか/②計画の妨げとなる事象が十分に検討され、それを軽減するための対策は検討されているのか  【判断方法(指標など)】ToCの質/資金分配団体POとJANPIAPO間で協議  【判断基準値】(状態)事業関係者が十分納得できる内容になっている/(状態)事業関係者と合意できる</p> <p>①各実行団体の達成目標に関しては、リトルワンズや沖縄県母子寡婦福祉連合会のように、シングルマザー支援に実績のある団体に関しては、前者はなるべく多くの参加者、後者は各分野の企業の協力を得ることで、これまでの事業の発展を目指し数的にも十分な達成をめざしている。一方で、アソシアやレキサスに関しては、新しい事業のスタートアップであることから、まずは事業モデルの確立ができるかが重要な指標となる。現在個別面談などで、課題など随時把握していることを聞き取りしている。</p>

## 事業設計の分析の詳細

### 事業設計ツールの改善内容

各実行団体の評価指標は、申請時および初期に設計したものと、現状のものは変化している。ロジックモデル作成ワークショップなどを通じ、アウトプット指標ではなく、アウトカム指標が重要であることを理解し、更新してもらった。ロジックモデルを積極的に活用している団体はレキサスのみであるが、ワークショップで社会的インパクト評価の一定の理解は得られたと考える。また、財団としてのゴール設計も具体化してきているため、ロジックモデルを更新中である。シングルマザー支援を通じて、沖縄の貧困問題にアプローチするため、長期アウトカムはより大きなものを検討すべきではないかと考えている。そのため、評価計画（一部事業計画）の修正を実施したい。

「事業設計ツール」とは、活動からアウトカムまでの論理的なつながりを図示したものの。セオリーオープンチェンジやロジックモデル等のこと。

## 事業計画の確認

### 重要性（評価の5原則）

先行研究を元にしたシングルマザーの収入や就労の状況の分析（1）や、現状のシングルマザーの就労や研修に対するニーズの把握（2）と、企業側の状況の分析（3）が最も重要な点である。（1）をベースに各実行団体は（2）（3）を実施している。オリオンビール奨学財団は（2）（3）を各団体のヒアリングを通じて実施しているが、中間報告に向けては改めて調査実施する必要があると感じている。

## 今後の事業にむけて

### 事業実施における留意点

当財団としても、こうした事業実施は初めてで、チームビルディングを実施している最中である。各団体とのさらなる信頼関係構築に向けて、財団側の運営基盤を整え、より丁寧な事業実施を心がけたい。また、コロナの状況が収まっているタイミングには、可能な限り各団体の事業実施状況を視察し、現場の状況や課題などを把握できるように努め、伴走支援を拡充していきたい。

## 添付資料